

令和5年度 市政懇談会 開催議事録

開催日時：令和5年11月14日（火）午後7時00分～午後8時25分

開催場所：稲田石材商工業協同組合 事務所

出席者：7名

《意見交換》

- 1 稲田石の積極的な利用について
- 2 東京でのイベント参加やPRについて
- 3 稲田石PRと淑徳大学について
- 4 石材業界の新しい担い手について
- 5 いなだストーンエキシビジョン制作作品の利活用について
- 6 笠間市地場産材活用促進事業補助金について
- 7 橋の架け替えについて
- 8 今後の石材業界について

1 稲田石の積極的な利用について

【意見等】

市内でぜひ稲田石を積極的に利用してほしい。

また、製品にならない稲田石（2級品・3級品）は通常より低価格で提供可能なため、活用いただければありがたい。製品にならない石は、通常は海のヘッドランドなどの埋め立てに使われたりするが、地上で活かすことができればと思う。車止めや縁石の使用例もあるので、検討してほしい。

【回答】

景観上のバランスを見ながら、稲田石を積極的に利用していく。現在は、笠間工芸の丘の前にある道路の法面に間知石を設置する工事を進めている。今後、市内での大型施設の建設予定は、笠間市環境センターの老朽化に伴う新施設建設以外はない状況である。

車止めや縁石の利用についても、周りの景観を見ながら積極的に検討していく。現在は、大池公園や市営福原住宅の車止めに稲田石を利用している。

2 東京でのイベント参加やPRについて

【意見等】

以前は市で、東京（麻布十番等）でのイベントに多く参加して稲田石もPRしていたが、今後はないのか。また、県アンテナショップでもPRをしてはどうか。

【回答】

東京でのイベントに数々参加したが、PRのメインは観光や農産物であった。また、県アンテナショップ（IBARAKI sense）の取り扱いも、工芸品ではなく食べ物が中心である。

イベント参加は出展料が高額なことも多く、安易に参加できるものではない。稲田石PRを考えると、大きい商品は運搬が困難なため、小さな商品になると思うが、商売的に成り立つかどうか疑問だと思う。

東京ではないが、人気の高い「かさま新栗まつり」で来年、稲田石材商工業協同組合で出店をしてはどうか。栗をモチーフにした商品準備と人員協力が必要だが、ぜひ検討をお願いします。

3 稲田石 PR と淑徳大学について

【意見等】

稲田石 PR のためには、笠間出身の方や関連の会社・お店などに稲田石のものを設置するのが効果的と考える。例えば、笠間市と関連がある「淑徳大学」に稲田石のものを設置してもらうことは可能か。

【回答】

淑徳大学は、創始者の故・長谷川良信さんが笠間市（本戸）の出身であることなどが縁となり、笠間市と連携協定も締結している。大学への稲田石設置は可能かもしれないが、対象が大学生であることから効果がどうかは不明である。市内で大学の実習を定期的実施している中で、その中で稲田石関連の現場を見てもらうことは効果があると思う。市の担当課と調整する。

また、市出身の方などのお店で稲田石が利用されているので、市 SNS など積極的に PR していく。

4 石材業界の新しい担い手について

【意見等】

若い方の入社がないため、石材業界の将来を担う人たちがいない。新しく石屋になるために笠間市へ移住してくる方に向けて、市からの補助を検討できないか。

【回答】

石材業界に限らず、すべての業界で従業員をどう集めるかは課題になっている。また、家業で行っているもので、息子娘たちが継がない状況のために黒字営業であっても廃業するところも多いと聞くが、家族以外での後継者を受け入れて事業継続している事例は市内でも増えている。

石屋になりたい方を市で公募することは可能だと思うが、稲田石材商工業協同組合などで修行の場の提供や独立後の不安を払拭する対応をとる必要があると思う。「地域おこし協力隊」という制度もあるが、国からの財政的補助は最長3年間である。一人前の石屋になるためには3年以上の時間が必要だと思うので、協力隊制度が適しているかどうかは分からない。

5 いなだストーンエキシビジョン制作作品の利活用について

【意見等】

「いなだストーンエキシビジョン」で制作した作品が、市内の各石材会社に保管されていて、数が多い。良い作品なので、ぜひ活用をお願いしたい。

【回答】

市で一部の作品を購入・借用していて、友部駅や笠間芸術の森公園内などに設置している。エキシビジョン制作作品の利活用状況を稲田石材商工業協同組合で調べていただき、残りの作品は積極的に利活用していきたい。

6 笠間市地場産材活用促進事業補助金について

【意見等】

「笠間市地場産材活用促進事業補助金」について、利用が地場産材 100%でないと補助金対象にならないようであるが、条件を少し緩めていただくことは可能か。

【回答】

「笠間市地場産材活用促進事業補助金」は令和3年度から実施しているもので、個人やお店でさまざまな活用実績がある。今年度から市外での利用も新たに補助金対象となったため、市外の役所や商工会などを含め、広く周知していく。地場産材の条件については検討する。

また、既に市外のお店でも稲田石は利用されているので、市 SNS などで積極的に PR して、補助金利用をさらに促進していきたい。

7 橋の架け替えについて

【意見等】

橋の親柱について、少なくともはあるが定期的に市外から発注が入っている。市内で橋の架け替えの情報などあるか。

【回答】

橋の親柱は、景観上も耐久性も稲田石が最適で、まさに稲田石の良い活用方法だと思う。

現在は、全国的に施設等の長寿命化検討が進んでおり、橋を含めて新たに建設することが少なくなっている。市内では宍戸地区の橋が架け替え予定ではあるが、時期はまだ未定である。

8 今後の石材業界について

【意見等】

稲田石材商工業協同組合の組合員は、近年の状況を見ると毎年数社ずつ減少している。「後継者が見つからない」「後継者がいても経営が成り立たない」「設備投資も費用対効果を考えるとできない」など課題がたくさんある。今後の石材業界についての市長の考えをお聞きしたい。

【回答】

石材業界に限らず、少子化に伴う従業員不足や需要減少があるため、業界の会社数は減少していくかもしれない。しかし、石材業は一定の需要があり必要産業のため、会社数はゼロにはならないと思う。業界の適正規模が何社なのかを見極める時期に来ているのかもしれない。その中で、例えば複数業者で工場を共有することで設備投資を共同で行うなど、効率的な方法を見つけるなども一つの方法だ。また、新しいアイデアで新たな事業を実施するのも良いと思う。市も可能な限り協力するので、一緒にがんばりましょう。